第 21 号

編集発行
園田学園女子大学
シニア専修コース
「けやき便り」
編集クラブ

シニアの学び

情報教育センター所長　　難波　宏司

日ごろから、シニアの皆様の学習意欲の高さ、ただただ敬服いたしております。

意外に思われるかもしれませんが、明治５年の「学制」（明治政府が出した学校制度を定めた規則）の関連した文書には「自分の立身出世のため」（原文は漢文ですが意訳しています）と明言されています。下って、現行の教育基本法では、教育の目的は「人格の完成と国や社会の形成者育成（これはアメリカの影響ですが）」となって、戦後の方が義務感・修養感が強まっているように思えます。

話は変わって、今世界的にＳＴＥＭ（科学技術数学）教育がブームになっています。その一環として小学校などのプログラミング教育があります。ブームになっているということは、いままでＳＴＥＭ教育が衰退していたということでしょう。数学や理科（特に物理）は抽象的で現実離れし児童生徒の苦手な教科の筆頭でした。以前は自然の中にあった、木や土などを使って物を作ったりする経験を通して、数学や物理的現象を経験する機会が多くあったのですが、今はそれが薄れてきたからです。

今、小学校では、「アナログ」とは何かを教えることが身近に少ないので難しくなっているという話を聞きます。また自分で経験したことのないことは、頭の中で創造し考えるので時間がかかります。学校や職場での教育では、ノルマが決まっており、時間が限られているので、じっくり知識（知って考える）・理解（自分なりの理屈を立て説明する）することができず、表面的に知ったふりをしている場合が多いのです。

さて、年齢を重ね勉学の義務感を離れたシニアの皆様、皆様にとって「学び」とは何でしょう。それぞれご意見があるかと思いますが、最終的には、自分のために「学ぶ」のです。ですので、学びを得るには時間は関係ありません。知ったふりをする必要もありません。自分の納得のいくまで、自分のペースで学んでいきませんか。

目　次

シニアの学び・・・・・・・・・・・・・・・・・情報教育センター所長		難波　宏司	P１
第 56 回「けやき祭」盛大に開催される・・・・・・・・・・・・・・・・		編集クラブ	P３
生涯学習 40 周年記念講演 記念セミナーから・・・・・・・・・・・・		編集クラブ	P５
人間を考える～人生を楽しむ～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		編集クラブ	P６
山形・米沢藩『かてもの』の旅・・・・・・・・・・・・	文歴１年	河田かつのぶ	P７
今城塚古墳・今城塚古代歴史館ツアーに参加して・・・	研究生	三木　静子	P９
クラブで出会いの喜びを感じて・・・・・・・・・・・・	国際１年	三谷美沙子	P10
メコン川を旅する（前編）・・・・・・・・・・・・・・・・	国際１年	十河　和夫	P11
文学歴史学科９期生同期会～素敵なランチと美術館～	研究生	木下　俊造	P16
『阪急電鉄殺人事件』を読んで・・・・・・・・・・・・	研究生	高山　純子	P16
私と台湾をつないだ園田学園女子大学・・・・・・・・	研究生	阪田　正樹	P17
あまがさき城音頭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	研究生	橋本　秀明	P18
中国「西安」じつは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	研究生	井上　聖明	P19
現代経済の新しいこころみ・・・・・・・・・・・・・・・	研究生	馬場　正子	P21
外国人労働者が使い捨てにならない環境に・・・・・・・	国際３年	木田　信正	P23
ホールインワンとゴルフ人生・・・・・・・・・・・・・・	文歴３年	川田　郁夫	P25
ゴルフの「けやき会」誕生・・・・・・・・・・・・・・・	文歴２年	福島　久雄	P26
けやき「多彩な趣味の会」より・・・・・・・・・・・・・	研究生	今西　伸子	P26
「けやき朗読倶楽部」探訪・・・・・・・・・・・・・・・	編集クラブ	河田かつのぶ	P27
クラゲの水族館と”シンクロニシティ“・・・・・・・・・	研究生	西島登志子	P28
«ざっきちょうから»　風薫る慈光院・・・・・・・・・・	研究生	金森扶美子	P29
社会連携推進センター生涯学習ユニットからのお知らせ			P30
「けやき便り」への投稿について・編集後記・・・・・・・・・・・・・・		編集クラブ	P31

表紙　学園写真／編集クラブ

第56回 けやき祭

盛大に開催される

開花亭満席のビンゴ大会

令和最初のけやき祭が、10 月 19 日（土）と 20 日（日）の両日にかけ盛大に開催されました。19 日は曇り空でしたが 20 日は好天気に恵まれ格好のお祭り日和となりました。

今年のテーマは「ＮＥＷ　ＳＴＡＧＥ！～令和最初のけやき祭～」ですが、令和の時代になった事にちなんで、新しいけやき祭にするとの意味が込められています。

けやき祭は正門通りからスタートです。テント屋台が立ち並び、屋台から学生さんの元気な声が聞こえます。食べ物販売の掛け声、各クラブによる催しへの案内等と、とにかく元気印です。

会場は、学生はもちろん多くの地域住民や家族連れで賑わつています。

シニアによる取り組みでは、今年も熟年パワーを発揮して多くのブースが設置され、ライブステージもあり、そしてメイン会場である開花亭にたくさんの来場者を迎えることができました。

「時代屋」

社会連携推進センターが企画運営する「時代屋」ブースでは、シニア専修コースと公開講座に関する相談コーナーがあり、催しものとして人気のダーツ、魚つり、黒ひげゲームがありました。ドキドキワクワクのゲーム対決で、一回 100 円でのおまけ付きです。来場の家族と子供たちの笑顔が満ち溢れていました。

けやき軽音楽同好会

２日間にわたり日頃の練習成果をステージで披露されました。

１日目の 19 日は「野外ステージ」で約 30 分のライブ演奏、２日目の 20 日は例年の開花亭特設ステージから、本格的な演奏場所である第一音楽室で演奏されました。

結成から４年経過したシニアバンドは毎年パフォーマンスが高められ、歌姫は３人になりました。演奏は 70 年代に流行したポップス、フォークと懐かしい曲目です。

けやき朗読倶楽部

19 日､20 日の両日にわたり開花亭特設ステージで発表がありました。結成されてから３年でメンバーも約 20 名の大世帯となっています。

今年のテーマは｢朗読で絵本落語を楽しもう」です。朗読演目は

『ともだちや』　『怪力女房』
『落語小咄』　『まんじゅうこわい』
『しちどぎつね』

です｡それぞれ３名から 10 名あまりの読み手が朗読劇形式で絵本の世界に引き込んでいきます。

けやき多彩な趣味の会

昨年は「切り絵体験コーナー」で活躍された研究生の今西さん。

今年は仲間を集めて念願のクラブ「多彩な趣味の会」を立ち上げられました。

昨年は切り絵で仏像の幻想的な美しさを表現されていました。

今年は「来年の干支ネズミの切り絵」です。そして花文字アートにも挑戦です。コーナーでは多くの子供たちが頑張っていました。また子供たちの人気を集めていたのが「バルーンアート」です。

バルーンでかなり自由度の高いアートができます。

けやきITを楽しむ会

子供たちがパソコンゲームを熱心に楽しんでいました。ゲームはシューティングゲーム、落ち物パズル「ねこねこ」、ブロック崩しです。

けやき遊歩クラブ

ほぼ毎月一回の例会を楽しんでいます。今年も、近江八幡、神戸フルーツフラワーパークでバーベキュー、学園バスでの福井の旅、と各地に行き、その楽しんだ記録をパネルで紹介しました。

本年の目玉は､20 日に催された｢ビンゴ大会」です。豪華な景品が用意され、子供ばかりでなく家族揃っての参加です。開花亭が満員になる大盛況でした。

（写真と文：「けやき便り」編集クラブ　宮本・藤原）

生涯学習 40 周年記念講演 記念セミナーから

生涯学習４０周年を記念して、社会連携推進センター主催により、「人生を楽しむ」をテーマに、いくつかの行事が企画されました。今回はその中から 10 月に開催された２つの講演会とセミナーをご紹介します。

人生を楽しむ～ことばと共に～

講師　坪内 稔典氏

1944 年生まれ、「3 月の甘納豆のうふふふふ」などで知られる俳人で「船団の会」代表、正岡子規や夏目漱石を研究する文学者。京都教育大学の名誉教授でもあります。

10 月５日、講堂に約 220 名の聴衆を集めて、坪内稔典(ねんてん)氏の講演会が開催されました。

若き頃､坪内氏は正岡子規全集を衝動買いし、それが氏を俳句の道に誘ったそうです。そして園田学園二代目学長の一谷定之烝（いちたにさだのじょう）氏と運命的な出会いをされます。その頃の親しい交友の様子を、一谷氏の俳句を紹介しながら、面白くお話しされました。

坪内氏は、「甘納豆」の句で「これは俳句とはいえない！」「いやこれは立派な俳句だ！」と句会で論争を引き起こし、同時に大人気を博します。結果、あちこちから甘納豆が送られてくるなど、余禄もあったそうです。それに味を占めてか、その後「かば（河馬)」好きになって全国の動物園の河馬を見てまわり、ついで「あんぱん」、「柿」とレパートリーを増やし、人にも言いふらし、俳句に取り入れていったそうです。

坪内氏は、子供になぜ甘納豆なのか？と聞かれて困り、考えたあげく､「俳句について作者に気持ちを聞いてはいけない、自分の感じたことでよい」との結論に達します。人生について、「あまり意味のないことに没頭できるのがいいこと」と言われました。うーん、味わいのあるお言葉ですね。

恋色の若芽もえ立つけやき道　　一谷定之烝
桜散るあなたも河馬になりなさい　坪内　稔典

My Life, My Karate, My Story ～強く美しい姿勢の作り方～

講師　中町 美希レベッカ氏

前屈するときに一番伸ばさなくてはいけない部分はどこでしょう？･･･答えは･･･お腹です！

10 月 20 日、大学のスポーツセンターで中町美希レベッカ氏による表題セミナーが開催されました。 当日は５歳から 80 歳超までの幅広い年齢層の方々約 50 名が参加。ストレッチや呼吸、歩き方の実技も交え、大変楽しい 90 分でした。

まず、「My Life･･･」とあるように、中町氏ご自身の空手人生を中心に自己紹介。カナダ人のお父さんは本シニア専修コースの講師も勤める空手師範です。その父の影響で５歳から空手を始め、小学４年生から空手大会では常に優勝か２位。結婚して子供を産んでから１か月で大会に復帰、その後世界チャンピオンにもなりました。今も現役かつ道場や出身大学のコーチも務める２児の母です。

良い姿勢が空手に良い影響を与えることに気づき、ストレッチトレーナーの資格を取得、ご自身のストレッチスタジオをオープンしました。

～強く美しい姿勢の作り方～では、前後屈のストレッチ、正しい呼吸・正しい姿勢・歩き方を、冒頭のような質問と実技を交えてとてもよくわかるよう教えてくださり、背筋が伸びて、歩く姿勢も変わり、すごく得した気分です。

中町氏の、明るく何でも吸収して強く前向きに進もうという生き方が伝わってきて、とても気持ちの良いセミナーでした。

（写真と取材：編集クラブ 宮本、櫻井）

シニア専修生が講師として発信　園田学園女子大学公開講座

人間を考える　～人生を楽しむ～

2019 年 11 月 16 日（土）、公開講座「人間を考える」で、本学シニア専修コースから岡田禮子さんと鈴木好夫さんが講師を務めました。当講座は 1982 年にスタートした歴史ある看板講座で、本学シニア専修生が講師を務めるのは今年で６年目となりました。

◆ 学ぶ楽しみ・学ぶ喜び

情報学科３年　岡田　禮子さん

自分はいったい何を求めているのだろう？仕事一筋だった岡田さんは、退職した時に、自身に問いかけました。

オーストラリアに駐在時、安く買い貯めていた英語の古本を、辞書を片手に少しずつページを繰る。昔お茶を習っていたころに魅力を感じていた陶器を思い出し、登り窯の片隅を借りて 45cm の大皿まで焼けるようになりました。

その後阪神シニアカレッジの国際理解学科に４年間通い、そこで「外国を知る会」「デジカメクラブ」など４つの活動にも参加しました。卒業後には、同学科の有志が立ち上げた講座「外国ゼミナール」の会員となり、月２回ほど先生方から世界の“今の”現状を学ぶという充実した楽しみを続けています。

なぜ学ぶか？　岡田さんは、吉田松陰の「知識を得るため、出世をするためでなく･･･己を磨くため」との言葉を引用しつつ、学ぶのは自身の好奇心からだと言います。塩野七生の「ローマ人の物語」全 15 巻と続編も読破。塩野ワールドに浸っているのも好奇心です。

学びのなかで得たもの、それは得難い仲間。今の日本ではたいていのことはなんでもやろうと思えばできる自由がある。結びの言葉は「もっともっと刺激を受けて、人生を盛り上げていきましょう！」

◆ 健康で文化的な生活を

国際文化１年　鈴木　好夫さん

鈴木さんは４年前にサラリーマンを務めながら、仕事を半分に減らしてもらい、園田に通い始めました。

上のタイトルは、鈴木さんが結婚されたときに、「私たちは健康で文化的な生活を営むことを誓います」と、列席の皆さまに言ったものです。「文化的」とは？　老後の人生を考え始めたときに、もう一度この言葉を考えました。そして文化的とは「私なりの文化を取り入れた生活を楽しむこと」と解釈します。

入学した園田では文歴で３年間学びました。講義は文学も歴史も、とても面白かったそうです。クラス仲間とは、「いちご会（文歴 15 期会）」の愛称で集い、またテニス同好会に入り、こちらも仲間が増えました。

今年文歴を卒業しましたが、新たにクラス仲間と共に学びたいと、国際文化学科に再入学。学校やテニス仲間との交流を楽しみ、大好きな旅行ではフィンランドでオーロラをマウナケアで夕日を堪能、４千m級の世界の山も見て歩きました。週末ファミリーテニスもやっています。

「リタイアしてからが人生だ」という鈴木さんは、自身が良いと思う「人生の楽しみ方」を見出し、日々「健康で文化的な生活を」楽しんでおられます。

「けやき便り」編集クラブ　櫻井

米沢市立図書館で

松山先生と行く

山形・米沢藩『かてもの』の旅

文学歴史学科１年　河田かつのぶ

飛行機は新潟へ向けて飛んだ
みんなの「行ってみたい」をコースに加えて

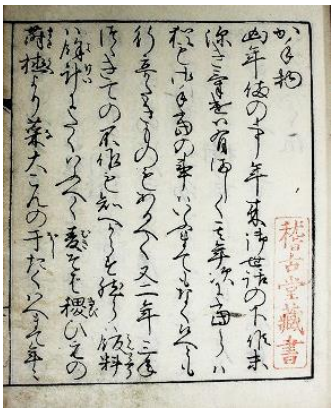
９月 10 日、私たち 11 名を乗せたボーイング機は目的地である山形県に向かわず、伊丹空港から新潟を目指しました。一日目は、阿賀野川ライン、白虎隊で有名な飯盛山、野口英世記念館を経て福島県磐梯熱海温泉泊です。

旅の目的は「『日本の風土と文化～食の安全保障』について松山利夫先生から学んだ内容と関連ある山形県米沢市に行く」でした。しかし、二泊三日の旅は、米沢以外にそれぞれが「行ってみたい所」を訪ねる目的もあり、日本海側から太平洋側へ東北地方を横断する旅になりました。それは、明治時代に新潟から山形を経て青森を旅して紀行文を残したイギリスの探検家イザベラ・バードの旅とも重なるものだと、事前学習会で松山先生から話があり、『日本奥地紀行』などの資料が配られました。

江戸時代の飢饉対策を米沢で学んだ
パンフレット名は『かてもの』

二日目は山形県米沢市に入りました。米沢藩主である上杉治憲（鷹山）はひっ迫する藩財政の改革を進め、領民を大切にしたことで有名です。小野川温泉にある塩田跡へ行きました。そこは鷹山が産業振興として温泉を利用して製塩したところです。上杉博物館、上杉神社をへて、今回最大の目的である米沢市立博物館へ行きました。

図書館では、青木昭博さんが二百年以上も前の貴重資料を持って迎えてくれ、鷹山の藩政改革や『かてもの』（写真右）について次のような話をしてくれました。



――飢饉に備えた領民のための救荒書が『かてもの』で、米沢藩が享和２年（1802）1579 冊を木版印刷し、領民に配りました。およそ９割を農村に配りましたが、読みやすいように、ひらがなを多く使い、漢字にはふりがなを付け、野草はこの地方で使われている呼び方で書かれているんです。その 19 年前には『飯粮集』（写真右下）が出版されています。

江戸時代後期、東北地方は宝暦の飢饉、天明の飢饉などの大飢饉に見舞われ、一万人を超す餓死者が出ました。そうした苦い経験から、凶作に備えて「かて」となる山野草の食べ方や栄養の摂り方などを書いたパンフレットを配ったのです。こうした救荒書の出版に多くの医者や家老などが関わったわけで、藩の飢饉対策だったのです。

大正や昭和になっても、冷害に苦しむ長野県や北海道などで復刻や活字にした『かてもの』が出版されました。――（以上、青木さんの話と資料から要約）

『かてもの』出版後の天保の飢饉では、米沢藩の餓死者が一人もいなかったといいます。まさに『かてもの』は食の安全保障として、役割を果たしたことが実感できました。

「遅筆堂文庫」井上ひさし展示室へ

20 万冊に及ぶ井上ひさしの蔵書の一部を展示し閲覧できるのが、「本の樹」（写真下）と名付けられた大きな書棚がある「遅筆堂文庫」。「遅筆で有名な井上ひさし」らしい命名の図書館のような展示室でした。「…読書によって、過去を未来へ、よりよく繋げんと欲す…」と「堂則」にあります。また､「むずかしいことをやさしく　やさしいことをふかく　ふかいことをおもしろく」の井上自筆の色紙もありました。

遅筆堂文庫のある敷地内には、イザベラ・バードの大きな記念塔があり、バードの新潟紀行の原稿が刻まれた記念碑がありました。阿賀野川ラインの船名にもイザベラ・バード号が浮かんでいましたが、新潟と彼女とのつながりは深いものだと感じました。

斎藤茂吉記念館へ

歌人であり精神科医でもある、斎藤茂吉が残した業績や交友関係、書画などを展示・解説されていたのが茂吉の記念館でした。山形県上山市の蔵王連山を見渡せる茂吉生誕の地に記念館がありました。JR「茂吉記念館前駅」をすぐ下に見て敷地に入ると、茂吉像が迎えてくれました（写真上）。茂吉の作家姿勢を紹介するコーナーや書画のコーナーを巡りました。

芭蕉が「閑さや岩にしみ入る蝉の声」と詠んだ山寺へ

芭蕉が三百年以上も前に山寺を訪れ、この句を詠んだというが、先ずは山裾にある、山寺芭蕉記念館へ。ここから山寺を下から眺め、緑深い山にへばりつく岩と寺院が見えました。

1015 段の階段を上り山寺・立石寺へと聞き、怖気づきましたが、走って上ろうとか、ゆっくり途中までなどの声があがり、無理なく行ける所までと決めました。自分のペースで登山口から山門、芭蕉の「閑さや‥‥」の短冊を埋めた「せみ塚」が中間地点で、更に上の五大堂までは全員が上りました。パンフレットには「澄み渡る群青の空に浮かぶ五大堂からの眺め」とありましたが、その雄大さは最高でした。

歴史と風土から学び、「その地で生きた人」に出会う旅

天童の将棋の発生と日本への伝来、将棋産業の歴史を知った天童市将棋記念館。上杉謙信などを祀る上杉神社。デラウエア生産日本一の山形県高畠のワイナリー見学と試飲など、あっという間の三日間でした。

山形県小野川温泉近くの田んぼアートを見学しましたが、当日の夕方と夜のＮＨＫのニュースで放映というハプニングもありました。

松山先生の講義をベースに現地を訪ね、先生の問いかけや解説を聞き、風や匂い、植生や建物､人の息遣いなど五感を通しての学びでした。それが歴史と風土から学ぶというものかと思いました。また各地の文学館などの見学を通して「その地で生きた人」との出会いがあり、多くの刺激を受けました。

福島県・野口英世記念館にて

今城塚古墳・今城塚古代歴史館ツアーに参加して

研究生　三木　静子

７月４日(木)の午後、高槻市郡家新町にある今城塚古墳を訪ねた。参加者は、原朋志先生が担当されている、日本史学(1)の受講者有志８名です。原先生の講義の内容に「６世紀のヤマトとアスカー継体天皇の登場」があり、そこから刺激を受けた。現在、墳丘に立ち入ることができるとのことで「現地を訪ねるツアー」となった。

まずは今城塚古代歴史館で、三島古墳群の概要や、今城塚古墳の発掘調査で出土した石棺や副葬品や埴輪群像の展示物の説明を受けながら見学した（写真上)。

３つ並べられた石棺は、大きく迫ってくる感じがした。奈良や兵庫や熊本から運ばれた凝灰岩で造られ、当時の権力の偉大さを知った。そして大王と誰がいつ埋葬されたのかと思い巡らせた。

また盛土に実物大の石を貼り詰める作業場面のジオラマがあり、古墳がどのように作られたのか、その過程の一部が見て取れた（写真左)。

次に今城塚墳丘の見学に向かった。今城塚は墳丘全長 190mの西向きの前方後円墳で、高槻市の史跡公園として整備されている。まず目に入ったのは、墳丘北側に大王の葬送儀礼を復元した埴輪群だった。1.3m位の円筒埴輪・馬・水鳥・武人・盾・巫女・家などの形象埴輪が立ち並んでいた。その整列したさまは、圧巻だった。近くに新池埴輪工房跡があり、これら数多くの埴輪が生産されたと聞いて納得した。

芝生に覆われた二重の濠を抜け、後円部墳丘に立った。木々の茂る合間から、円墳の外形がほぼ見て取れた。地震による窪みや３基の石棺が埋葬されていた箇所などを、心の中で手を合わせながら見てまわった。

▲今城塚古墳の埴輪群

曇り空ではあったが蒸し暑く、噴き出る汗を拭き拭き歴史館に戻り、しばらく休憩をした。セルフで作る、噂のアイスクリームは、甘くて冷たかった。一気に汗も引き疲れが取れた。帰りのバスの時刻を遅らせてもよいもぐもぐタイムとなった。

帰りは歴史館で教えてもらった近道をとり、水が張られた内濠を眺め、古墳の前方部を辿りながら、最寄りのバス停に向かった。

古墳時代を気軽に誰でも学べ、謎解きツアーに参加し、五感を通したより深い学びになりました。さらにクラス仲間と良い交流の機会にもなりました。

令和元年の新入学生

クラブで出会いの喜びを感じて

国際文化学科１年　三谷　美沙子

祭り大好き人間が軽音楽同好会に

令和元年（2019）４月11日園田学園女子大学シニア専修コース入学式に出席して、保護者としてではなく自分自身の晴れの日を迎えました。この入学を期に、希望と喜びを感じたのです。

入学式後のクラブ紹介で軽音楽同好会を知り、私はフォークソング世代にいっぺんにタイムスリップしてしまいました。祭りごと大好き人間の私は、誰にも相談せず、後先考えずに音楽室のドアを開けました。そこにはギター、ドラムセット、立派なマイクセットが有りメンバーが楽しそうに練習されていました。

一緒に歌いませんかと声をかけられ厚かましく声を出しました（冷汗だらだら）。じつは後日談では、部員は募集中ではなく、ミキサー募集中だったのです。

“ガーン”よくよくポスターを見ると練習、ボランティア演奏（見学大歓迎！！）と書いてありました。早とちりでも私は軽音に入ろうと勝手に決めていて、引くに引けず強引に入部をお願いし今日に至っています。

軽音のメンバーの諸先輩方も最初は厚かましい新入生が来たとビックリされたと思いますが、今では温かく仲間に加えていただき楽しく和やかなハーモニーを作りだしています。

THE GAKU-YOU のメンバーとして

軽音楽同好会「THE GAKU-YOU」は学内発表会、七夕祭りではバンド演奏、コーラス等地域のお子様達と一緒に楽しみました。

８月29日ピッコロシアターでの暑気払いライブには150名近くの来場者がありました。猛暑の中、頑張って練習した甲斐がありました。

以前、私は認知症対応のグループホームで介護の仕事を経験し、入居者様と一緒に昔の唱歌や童謡を歌い、「歌のおばさん」をしていました。施設の中をより明るくする為、少しでもお手伝い出来る事を心がけていました。

その経験を活かしてボランティア活動では、老人ホームに出向きTHE GAKU-YOUのメンバーの園田シスターズとして歌で参加しています。

シニアの底力を発揮したい

2019年度シニア専修コース第1回ミーティング報告では「シニア専修コースの目的と実現」社会貢献をする人材を育成する事を目標とする取り組みを揚げておられます。

国際的視野に立って国際交流をして諸外国のシニアのメンバーとの音楽交流が出来れば嬉しいなと心に秘めながら･･･どんどんと夢は広がりグローバルにシニアの底力を発揮したいと思います。

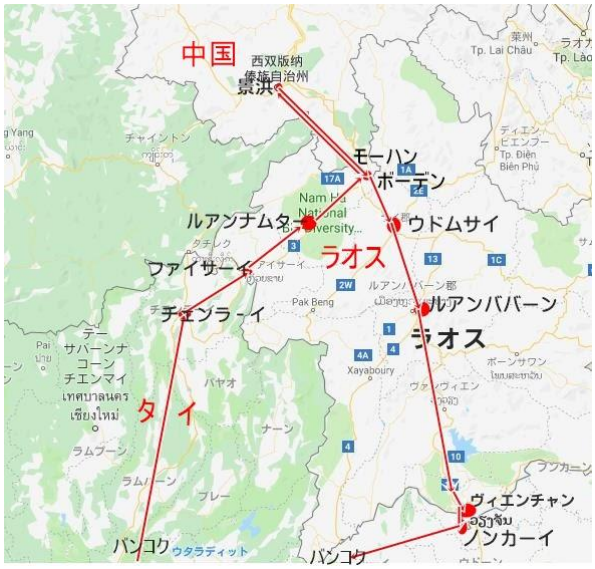
兵庫県、尼崎市社会福祉協議会等の催事にも積極的に参加し、ALL園田学園とシニア学生として地域交流にも参加し皆様と共に喜びを味わいたいと思います。これこそが社会貢献活動ですよね。

大盛況のもとフィナーレとなりました

メコン川を旅する（前編）

2019 年 8 月 14 日～30 日

国際文化学科 1 年　十河 和夫



バンコク→チェンラーイ→チェンコーン→（国境越え・ラオス）→ファイサーイ→ルアンナムター →（ボーテン国境越え・中国）→景洪→（モーハン国境越え・ラオス）→ウドムサイ→　ルアンパバーン→ビエンチャン→（国境越え・タイ）→ノーンカーイ→　バンコク

メコン川は源流のチベット高原から中国の雲南省を流れミャンマー・ラオス・タイ・カンボジア・ベトナムの国を通って南シナ海に放流される全長 4200 キロの大河である。今回、雲南省景洪からラオスの首都ビエンチャンまでの区間を旅した。

1. 国境の町、ファイサーイ

チェンラーイまで夜行バスを利用。ここからチェンコーン行きのバスに乗り換え、友好橋を渡ってラオスには昼前に入国した。このままルアンナムターまで余裕で行けるのだが、この日はファイサーイで宿泊することに決めていた。というのも、この町に思い出があったからだ。10 年前、青春時代憧れていたバックパッカーを一度やってみようと思い立って、チェンマイからファイサーイ経由でバンコクまで一人旅をした。単独で国境を越えて旅行する。それは小学生が初めて一人で列車に乗って遠くに行くのと同じぐらい不安な旅だった。つまり、この町は僕がバックパッカーになるために初めて訪れた記念すべき町だった。

丘の上からタイを望む

メコン川の岸辺にイミグレーション（入国管理事務所）の建物だけが建っていた。囲いもなく警備員もいない。出国の手続きが終われば、川辺に待機しているボートに乗り込む。ボートは定員になれば川を渡る。国境を渡ったらイミグレーションで入国手続きをする。別にパスポートが無くても自由に行き来できると思わせる国境だった。国境を越えるってこんなにもラフなのかと自信をつけさせてくれた町だった。

しかし、現在のファイサーイは変貌していた。観光客で溢れていた町から観光客が消えていた。2013 年に友好橋が建設されイミグレーションが郊外に移動した影響だ。昔の観光客はボートに乗って入国しここで一泊したが、イミグレーションが郊外に移動したため、この町で宿泊する必要が無くなったのだ。

あの時、感激の思いでビールを飲んだ思い出のレストランのテラスはそのままだったが閉店していた。テラスからは今でもメコン川を見られるが、客が来なくなっていた。ビールを買い込んでホテルの部屋からメコン川を眺めた。舟灯が揺らめいている。渡し船だろうか。それにしても、運航する船が少ない感じがした。町も火が消えたように寂しくなった。過去の賑やかさが去り、忘れ去られた町になったのだろう。といろいろ思っていたその時だ、『廃市』の場面が急に浮かんできた。主人公が旅館の窓から運

河を見ると、ゆらゆらと舟が曳航している。ギギーという魯の音、川面を照らす提灯の光。「静寂な時間が流れていく」幻想的なシーンだった。その場面と目の前のメコン川がダブって見えた。酔ってきたようだ。

早朝、ワット・マニラートが建つ丘に登った。町を一望する。メコン川が流れ、川向うはタイだ。境内にはすでに少年僧が托鉢のために 30 名近く集まっていた。小学生のような幼さでジャレあっている。6 時になると青年僧が号令をかけた。漫然としていた少年僧が一列に並び、全員でお経を唱えた後順次階段を下っていた。階段途中ではしばらく前から僧を待っていた人々が、膝を曲げ頭を下げて喜捨の飯を托鉢に投げ入れる。少年僧は凛とした佇まいでそれを受け取った。10 年前には多くの観光客が托鉢を見学して僕もその中にいた。が、今はその姿を見かけない。それでも、町の人は昔と同じように喜捨している。托鉢は観光ではなく信仰なのだと気がついたら、以前のように托鉢僧の後を追いかけて写真を撮る事が出来なくなった。町は『廃市』と同じように静寂を取り戻し、僕の「思い出」は書き換えられた。

托鉢前の少年僧

2. タイ族の故郷、景洪（ジンホン）

景洪はタイ族が古くから住む土地で、西双版納（シーサンパンナ）とも呼ばれている。旅行前に読んだ『雲南、赤い大地』（劉岸麗・著）では、雲南はジャングルで覆われた貧しい少数民族が住む土地として描かれていた。1960 年代、毛沢東は「上山下郷（農村下放）」の方針を打ち出した。都市に住む青年を辺境の地に下放させる改革運動だ。作者の劉も 16 歳になるとその呼びかけに応じて雲南に下放する。当時の雲南はとてつもなく貧しい僻地だった。劉も、あまりにも貧しい農村で驚いたと書いている。青年たちは理想に燃えていたが、現実は過酷な労働と思想闘争に疲れて挫折した者も多かった。しかも、農村の貧困を無くすための開拓が、権力闘争に利用された不毛の闘争だったのだ･･･。

メコン川沿いに林立する高層ビル

まあ、そうした知識を前もって仕入れた上で「景洪」にやって来たのだが、来て見てビックリ。僻地どころか大都会ではないか。

まず、僕たちが宿泊したのはホテルではなく民宿だった。インターネットで予約したので民宿の意味を理解していなかったのだが、要はコンドミニアムの一部を貸しているのだ。民宿といっても、部屋は広くて清潔。部屋からはメコン川が一望されて眺めは最高。ロビーには共用の冷蔵庫があり、料理も出来るレンジやコンロもある。コーヒー・茶類は用意されている。それだけではない冷蔵庫にある缶ビールも無料（これには感動した）。ランドリー設備もある。旅行者にとって嬉しい設備が完備されているのだ。中国では、ホテルよりも民宿という選択もあると思った。そして、この民宿を経営しているのは若い女性だった。若い世代が新規事業に積極的に挑戦する。これが新中国なのだろう。

本当に驚いたのは、スマホの普及だ。メコン川の土手で開催されている夜市の屋台で、BBQ を食べビールを飲んだのだが、現地の人はスマホで払っている。店の前に掲げられている QR コードにスマホを当てるだけ。それで終わりだ。中国ではキャッシュレス化が進んでいると聞いていたが、それを目の当たりにしてしまった。

次の日は川沿いのビヤバーに行った。クラフトビヤーが美味しそうだったので入ったのだが、ここではもっとビックリした。戯作風に書くとこうなる。

「旦那はん御料さん、こちらの席に並んで座っ

ておくれやす」と丁稚が案内した。

各卓にある QR 表

「そうか、川が眺められていい席ではないか」

「それは、もう特等席でおますから。まず飲み物から伺いましょうか」

「そうじゃな。それにしてもまずメニューを見せてもらわんと、何を注文していいかわからんではないか」

「旦那、ボケては困りますがな。ここにＱＲコードがおまっしゃろ」と丁稚が机の上にあるカードを指差す。

「ここにＱＲコードがあると言われても。とにかくメニューを持ってきてもらわんと」と催促するが、丁稚は無言。

「これ、丁稚どん。こちらは上方の客やおまへんか。上方の人にＱＲコードというてもわかりまへんがな」とその時、突然番頭が現れて取りなしてくれた。そして、自分の持っている携帯小型コンピュータ（スマホ）を取り出して、ＱＲコードに当てる。あら不思議、画面にメニューが現われた。

「番頭はん、すまんがわての携帯（スマホ）では、それが出来んのじゃ」

「そんなことわかってま。わてのスマホを使って下さい」チャンチャン！

驚いた。メニューから注文、勘定まで全てスマホで管理しているのだ。便利といえば便利なのだが、映画『未来世紀ブラジル』に迷い込んだような不気味な思いだった。

３.ラオスの「アメリカン・グラフィティ」

ウドムサイ

僅かに聞こえるリズムで目が覚めた。イサーンのメロデイだ。聞くだけで踊り出したくなるメロデイ。イサーンの人はこれを聞くと踊り出す。どこから聞こえてくるのだろう。僕はカーテンを開けて外を見た。すると、１台も停車していなかった停車場が車とバイクで満載になっている。その先にはケバケバしくネオンで飾られた建物があった。昼間はまるで目立たない建物だったが、深夜になると変身していたのだ。

怪しい！何なのだ！このまま見過ごしておくわけにはいかない。兎にも角にも、様子を見に外に出た。驚いたことにそこにたむろしているのは 10 代の若者たちだ。女性も男性もカップルもグループでたむろしている。ネオンで飾られた建物の前にはガードマンが立っていた。関係者以外は入場お断りという雰囲気だ。しばらく様子を見ていたが、ひっきりなしに若者が出入りしている。

怪しげなクラブ入口

「入ってもいいか」と聞いたら簡単に OK がでた。入口に垂れているカーテンを開いてビックリ。頭の中から！！！！！が飛び出た。

そこは大音響のロックと光が飛び回る GoGo クラブだ。中央フロアでゴーゴーダンスを踊っている。周りのテーブルでは瓶ビールを飲んでラリっている。全て童顔が残る 10 代の若者だ。いつか見た風景だ。僕が若者だった頃、難波にあったディスコ「Ｂ＆Ｂ」ではないか。

それにしても、これだけの若者がこの深夜に集っていることに驚いた。僕のいる場所ではないことに気づいてすぐにそこから飛び出た。外では、若者たちがバイクや車で次々とやってきていた。女性グループと男性グループが相手の注意を引きつけようと掛け合いをして、気があえばカップルになっていた。

青春時代に観た『アメリカン・グラフィティ』の世界だった。1962 年の小さな地方都市が舞台だった。閉塞した田舎町の若者を描いた映画だった。若者たちの唯一の気晴らしはカスタム・カーをぶっ飛ばしてガールハントすることだった。それと全く同じ場面が目の前で行われているのだ。アメリカの若者たちは、その後ベトナ

ム戦争に従軍させられた。その若者たちによってベトナムだけでなくラオスも大きな被害を受けた。さらにアメリカは、この地に住む山岳民族のモン族を協力者としてベトナム戦争に従軍させた。ベトナム戦争が終わると、モン族はアメリカに協力したと反逆者扱いにされ差別されるようになった。だから、モン族は今もこの山にへばり付いて生きているのだ。

ここに住む若者は山道を暴走族となってぶっ飛ばすこともできない。コンビニ前でたむろしようにもコンビニがない。繁華街でブイブイしたくても繁華街がない。大声を出したくてもカラオケがない。何よりモン族の若者は都会に出て働く道を塞がれている。どうすればいいのだと叫びたくなるほど閉塞されているのだ。この地の若者にとって、ここが唯一エネルギーを発散させる場所なのだろう。山奥から時間をかけて車やバイクで集まってくる。服装も都会の若者と同じようなお洒落な服装で決める。あちこちで、声を掛け合っている。相手を探しカップルになる。それだけが目的だ。もうムンムンしたエネルギーがあちこちで固まりとなってぶつかりあっている。ぶつかりあった塊から何組ものカップルが出来る。もう広場はカオスの世界だ。夜の世界と昼の世界が分断されている町がたまにある。旅人には通常夜の世界は隠されている。が、時々偶然に現れる裂け目から見える事がある。今回も、偶然が重なってウドムサイの夜の世界を見る事が出来たのだ。

早朝、外に出たが昨夜の事が幻と思わせるほど広場は静寂に包まれていた。部屋の窓下を見ると切り開かれた四角い袋が目に入った。若者たちは満足した夜を過ごしたのだろうか？

車とバイクが犇（ひしめ）いていた駐車場から国道に出た。山から降りきた朝霧が少しずつ薄れてきている。遠くの方から数名の托鉢僧が一列並んで歩いてくる。

道に寝転んでいた犬が僧の方を向いたがすぐに頭を垂れた。昨夜と同じ年代の青年僧が、僕の前をゆっくりと通りすぎた。

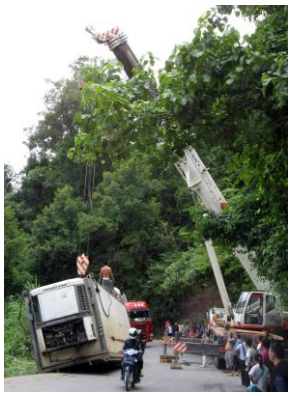
４.急ピッチで進む「一帯一路」

ルアンパバーン・ビエンチャン

夏、『主戦場』を観た。日本の右派活動家が「今やアメリカが主戦場になっている」と語った言葉からタイトルがつけられた映画だ。その言葉を借りて「今やラオスが主戦場になっていた」と言ってみたい。何の主戦場かといえば中国が進めている「一帯一路」だ。現地に来て驚いた。中国の国境の町・磨憨（モーハン）からラオスの首都ビエンチャンまでの高速鉄道が建設されている。全長 420 キロ余りのルートの大半が山岳地帯を走る工事だ。全区間の 60%はトンネルや高架橋の建設工事が必要で、トンネルの数は 75 本、高架橋は 167 か所にのぼる計画だ。全く驚くべき計画だが、それをあちらこちらで建設している。しかも、建設費を電力で支払う契約のためダム建設が何箇所も同時で行われている。もう、至る所が工事現場化しているのだ。

「建好老中鉄路 造福老中人民(ラオス―中国鉄道をきちんと造って、両国民を幸せにしよう)」。そんな看板があちこちの工事現場に掲げられていた。工事現場の近くには飯場が建てられている。建設労働者の多くは中国人だ。両国民がどれだけ幸せになっているのか？ラオスの建国記念日である 2021 年 12 月 2 日の開業を目指しているらしい。

問題なのはこの区間の大半が尾根伝いの山道だということだ。狭い２車線の道がクネクネくねくねと延々と続いている。その狭い道を工事用の大型車が引っ切りなしに走っている。しかも、工事現場には泥縄式の迂回路が作られていた。その迂回路だが、泥道で縄のように狭い（うまい例えだ



っしゃろ)。しかも、あちこちで陥没してデコボコだ。

やはりと言うべきか、やっぱりと言うべきか事故が多発している。最初は大型トレーラが横転して道を塞いでいた。クレーン車が来て事故処理をしていた。これで１時間ぐらい待たされた。さらに道を進んでいくと、陥没して池になっている場所があった。ここでも２時間近く待たされた。

排水管が壊れて川の水が流れ込んだ

おかげで、４時に到着する予定のルアンパバーンに到着したのは夜の７時だ。翌日は７時にチェックアウトしたので、世界遺産の古都を 12 時間滞在するだけの結果になってしまった。

12 時間の滞在だったルアンパバーン

後で、妻から「あんな弾丸旅行、疲れるばかりだったわ」と責められた。予想外の事故があったのでと弁明すると「そんな事も考慮して計画するのが当たり前でしょう」で終わりだ。

５．夜行列車でバンコクに着いたが、大事な物を忘れたの！と妻が呟く

ノーンカーイからバンコクまで夜行列車で約 12 時間かけて帰ってきた。寝台列車とはいえ疲れた。無事、バンコクに帰り着いたという安堵感かどっと疲れた気分だった。ホテルに到着してさあひと休みしようかと思った時、妻がパスポートを忘れてきたと呟いた。パスポート！どうか思い違いでありますようにと祈りたい気分だった。

妻は追い討ちをかける「ハッキリ覚えているの、ベッド側の机の引出しに入れたのを」。

何でそこまで記憶があって忘れたのだという気分だった。しかし、怒るより先に命より大事と言われているパスポートを取り返さねばならない。頭をフル回転させる。ノーンカーイには飛行場が無い。バス往復なら明日には帰れる。帰りは寝台列車でもいいかも。そうだ、近くのウドーン・ターニーなら空港がある。飛行機だ！

そう決めてしまえば、後はホテルの人に頼み込むしかない。まず、バンコクのホテルの人に説明。ノーンカーイのホテルに連絡してもらいパスポートがあるかを確認。直ぐにノーンカーイまでの往復航空券をスマホから購入してもらう。便が決まった段階で、再びノーンカーイのホテルに連絡。ノーンカーイのマスターがウドーン・ターニーの空港まで届けてくれることまで話をつけてくれた。地獄に仏とはこの事だ。タイの人を益々好きになった。

下記は、その時のメモだ（　）内は後で付け足した気分と説明。

―― 今、ドンムアン空港（バンコク）でこれを書いている。今回の旅で『渡る世間に鬼はない』という諺の意味が良く分かった。旅でトラブルが発生した時に周りの人が助けてくれる。それは人間が本質的に持っている性格だ。人が困っていたら助ける。それはお互い様でもある。『情けは人の為ならず』『袖触り合うも他生の縁』等々。旅をすればそれらの意味がよく理解出来る（タイの人にすごく感謝している）。

（ウドーン・ターニー空港で）突然ぽっかりと自由な時間が表れた。これから一人で５時間どうして過ごせばいいのだ（すごく怒っている）

――

愚痴の一言も言いたかったが「予想外の事も起こるのを予想して計画するのが当たり前でしょう」という返事が返ってきそうなのでやめた。

機体が可愛いノックエア航空

文学歴史学科９期生同期会

素敵なランチと美術館

研究生　木下　俊造

夜来の風雨も収まった 10 月 7 日、17 名全員が阪急大山崎駅前から、美術館専用の送迎バスで「アサヒビール大山崎山荘美術館」へ出発。

館内は来場者も多く、モネ、リーチなどの所蔵品、特別展の東山魁夷の絵画と歴史ある建物や庭園に魅了され、美術館を後にしました。

駅に向かう下りの坂道で、バス組とハイキング組に分かれ、大山崎駅から徒歩 30 秒の「ハーミットグリーンカフェ大山崎店」に着くと、お待ちかねのランチ会です。ゆったりとした席を用意していただき、おしゃべりが一段落した頃に運ばれてきたグリーンピースの冷たいスープは絶品！　その後のコース風で豪華さと繊細さがミックスされた素敵なランチに、至福の時間をプレゼントされたようで一同大満足。

素敵なランチの「ハーミットグリーンカフェ大山崎店」

今回、近況報告はなかったものの、12 月に同期会兼忘年会の実施が決まり、今日の語らいと年内再会の楽しみを胸に、帰路につきました。皆様、次回も元気でお会いしましょう！

『阪急電鉄殺人事件』を読んで

研究生　高山　純子

先日書店で、西村京太郎の『阪急電鉄殺人事件』という本が目に留まり、思わず購入してしまった。数十年前、私は“乗り鉄もどき”で時刻表を見るのが好きだったので、当時の西村京太郎の作品をたくさん読んだ。今回ひさしぶりにこの作品が気になったのは、私にとって身近な阪急電車が題材になっていることと本の帯に書かれている３人の人物に関心があったからである。

阪急電鉄といえば梅田～十三間の三複線が有名だが、これを撮影に来た写真家が事件に巻き込まれる。六甲駅で起きた人身事故が実は殺人であった――というのが発端だ。

背景には日本の近代史があり、吉田茂・石原莞爾・阪急電鉄社長 小林一三などが登場する。もちろんフィクションなのだが、読んでいるうちに事実のような気がしてくるから不思議なものである。

昭和初期から戦後の歴史の中に組み込まれた複雑なストーリーで、最初は犯人の影さえ見えない。手掛かりとなるのは戦時中に発行された同人雑誌だ。雑誌を探すために同人であった人達の子孫を尋ねて東奔西走する。

一方で、故人に関する本や資料を読む地道な捜査が続けられるが動機がわからず、容疑者も浮んでこなかった。また、その過程で故人の名誉や関係者のプライバシーについての問題が生じたり、報道機関への対応にも苦労したりで捜査は難航した。しかしその後、事件は一気に解決へと向かうのである。

最後の意外な展開には「なるほどそうだったのか」と納得した。

フィクションとはいえ、昭和史に興味のある人が読めばおもしろいと思うかもしれない。

私と台湾をつないだ園田学園女子大学

研究生　阪田　正樹

私は2005年まで台湾には興味はありませんでした。むしろ台湾は男性の歓楽のための所という程度の認識しかありませんでした。2005年に尼崎市役所の国際交流協会から、園田学園女子大学の国際交流センターが台湾からの短期留学生のホームステイ先を探しており、私に協力依頼がありました。

私は中国語も英語もできないので断りましたが、留学生は日本語を学ぶために来るので「日本語で接して欲しい」と言われ、引き受けました。

事前に国際交流センターから説明があり、我が家に来る学生は台湾の桃園にある開南管理学院（現開南大学）のＡさんでした。応用日本語学科の２年生で日本語はまあまあ話せるということでした。その当時は２週間のホームステイでした。その時の担当の大野さんには親切にしていただき、感謝しています。

いよいよ初顔合わせの時はＡさんも緊張していましたが、私たちも緊張していました。家に連れて帰ると最初は会話が弾みません。

暫くすると打ち解けて料理も一緒に作るようになり、いろいろなことを話しました。週末は学校のカリキュラムがないので温泉なども行きました。後で分かったのですが、台湾では温泉には水着を着けて入りますが日本では裸で入りました。留学生も日本に溶け込もうと頑張っていたみたいです。

Ａさんはよく笑い楽しく台湾のことを話してくれたお陰で、私たちも台湾にとても興味を持ちました。

その後、数年間台湾からの留学生をホストファミリーとして受け入れました。いろんな留学生が来ました。そして私もますます台湾に興味を持ち台湾が好きになり、台湾の事を勉強しました。

私は定年と同時に園田学園女子大学のシニア専修コースの国際文化学科に入り、もっと詳しく台湾の事を学びました。その後台湾に頻繁に行くようになり、かっての留学生と再会し楽しい時を過ごしました。2015年久しぶりに台湾からの留学生を受け入れました。Ｂさんという留学生でした。以前の学生とは違い現代っ子という感じでした。Ｂさんは数年後、長期留学で日本に来た時に犬山のリトルワールドに行ったり、私が台湾に行った時はＢさんのお母さんに台湾の台中を案内していただいたり食事を楽しんだりしました。Ｂさんは日本が大好きで、日本で働きたいので、現在就労ビザを申請中です。

私は同じ国際文化学科の酒井さん、井上さん、西田さんと一緒に、園田学園女子大学で2015年、2016年と台湾留学生とシニア専修コースの皆さんとの交流会を企画しました。

残念ですが、2017年～2019年は台湾からの留学生は来られなかったので、交流会などはできませんでした。

第１回台湾留学生とシニアの交流会の風景

今も以前の留学生と再会し学生たちがそれぞれ成長して結婚し、母親になっていたりする姿を見守っています。

そんないい出会いを作ってくれた園田学園女子大学に感謝しています。

台湾の人は日本の統治時代を乗り越えて親日の人も多くいます。

台湾の文化や風習を勉強する機会を得て、また台湾旅行に行った時に台湾の人たちのやさしさに感動する事も多くあります。

最近では原住民（パイワン族のおばあさん）と話すことができました。これからも個人の立場として日台交流を続けていき、「けやき便り」などで発信できたらと思っています。

あまがさき城音頭

作詞作曲　石井克子

※キャッスル　キャッスル
（ソレソレソレソレソレ）
ハッスル　ハッスル
（ソレソレソレソレソレ）
あなたもわたしも　ＡＭＡ（アマ）
みんなで歌おう　ＡＭＡ（アマ）
キャッスル　キャッスル
ハッスル　ハッスル
あまがさきの　お城音頭
（アマ・アマ・アマアマ）

水のみやこの大阪と　港神戸のほど近く
便利ですみよい　この町に
お城ができたよ　あまがさき城
弥生時代の　田能遺跡
近松さんの　浄瑠璃に
みまもられて　つつまれて
続いてきました　この歴史

※　　繰り返し

寺町どおりを見まわすと
忍者スタイル　走り出す
元気わきでる　そのすがた
夢と勇気が　あふれだす
ミドリ電化のまごころに
みんなの気持ち　あつまって
義理と人情のこの町に
新たに生まれた　このお城

※　繰り返し

キャッスル　キャッスル
（ソレソレソレソレソレ）
ハッスル　ハッスル
（ソレソレソレソレソレ）
マッスル　マッスル
（ソレソレソレソレソレ）
ＡＭＡ（アマ）　ＡＭＡ（アマ）
あ・ま・が・さ・き・じょー！！

ダウンタウンに花がさき
４００年の時こえて
平成最後の　その年に
あらたに生まれた　このお城

※　　繰り返し

「あまがさき城音頭」の紹介

平成31年3月29日に尼崎城天守閣が復元、公開されました。これを祝し、知人が盆踊り歌を作成しました。ＣＤジャケットには「生まれ育った尼崎市の活性化を願って作った楽しい曲です」とあります。歌はHina、演奏はJazz Group LUNA(ルーナ)with Friendsです。上のイラストは、ＣＤジャケットの一部です。

特に、尼崎市にある園田学園シニアの皆さんや尼崎在住の方に知って戴きたく、作者の許可を得て「あまがさき城音頭」の歌詞を掲載するものです。

なお、ＣＤ(歌入り・伴奏のみ)、ＤＶＤ(振り付け入り)も発売されています。興味のある方は、橋本まで連絡下さい。

研究生　　橋本　秀明

中国「西安」じつは・・・

研究生　　井上　聖明

中国「西安」は古く唐の時代は「長安」と呼ばれ、中国のほぼ中心辺りの場所で、シルクロードの東の始点であったことから、文化の十字路とも称されている古都です。また、世界歴史遺産の「始皇帝陵・兵馬俑」などが有るところとしてもよく知られています。

西安市内とその周辺は歴史的遺産や古寺が数多くある地域で、伝統工芸と農業、特に近年は観光産業に力を入れているとのことです。市街地にはマンション群も目立ちますが、比較的落ち着いた雰囲気の都市です。

訪ねた史跡の幾つかを紹介します。

「秦始皇帝兵馬俑博物館」

世界歴史遺産に指定され、西安を代表する史跡の一つで、1974 年、農民が地下の空洞に沢山の陶器の人形が並んでいるのを見つけ発掘が始まりました。発掘では、陶製の将軍・兵士・軍馬などの像が約 8000 体、青銅器が４万点見つかりこれらは２千年も前に作られたもので像の顔の表情は一つ一つ違っています。それに、どの像も綺麗に色がついていた事も判っていますが、空気に触れると次第に色が消えていくそうです。現在も発掘調査が続いていて、説明を聞きながらまわると２時間以上かかる広さです。

「華清池」は、中国の三大美人楊貴妃と唐の玄宗皇帝の恋物語で知られる離宮です。ここは３千年前に温泉が発見され、それ以降歴代の皇帝がこの地を温泉の湧く観光地として開発しました。楊貴妃が生

きていたのは西暦 719～756 年ですから、その頃はすでに温泉施設が整っていて、現在その風呂が復元され、御湯遺跡博物館として一般に公開されています。

「西安の市街地にあるイスラム教徒地区」

西安はシルクロードの出発点だったので、西側の異文化がたくさん入ってきました。その一つがイスラム教で、現在この地区には約５万人の信者が住み、モスクが 10 院あるそうです。ここの「美食街」は、二つの文化を同時に味わうことができる場所で、特にイスラムの羊と中国の肉まんを併せた「羊の肉まん」は観光客にも人気だそうです。

「西安の城壁」

唐時代の長安城を基にして明の時代に復元された城壁で、世界に残っている城壁の中で最大の規模を持つものです。この城壁は市街地を四角形に囲む形で作られていて、城壁内は現在でも市の中枢としての機能をもっています。

その規模は、周囲約 14ｋｍ高さは 12mで、城壁の上部が 15mと幅広の道路になっているので自転車を利用する観光客も多く、高い位置からの眺望や夜景に浮かぶ城門も素晴らしく、西門には２千年以上も続いたシルクロード交流を記念した像が建てられています。

じつは　日本とつながりが深いところ

じつは、西安（長安）は日本の平城京と平安京のモデルとなった都市とされています。

じつは、日本のＴＶドラマ西遊記で夏目雅子が演じた「三蔵法師」は唐の「玄奘三蔵」で 645 年にインド巡礼から大量の仏教経典を持ち帰り 20 年かけて中国語に翻訳した僧です。

その経典を収めたインド様式建物「大雁塔」は、市内の慈恩寺にあり、高さ 64.1m、７階のレンガ造りで世界歴史遺産に登録されています。

じつは、「鑑真和上」は長安の僧で、遣唐使による要請で日本を目指す事になりましたが、すでに唐の重要な高僧で出国を許可されませんでした。しかし、当時の航海には危険がともない弟子達も反対するなか、仏教を広く定着させる為には自身で渡る他ないと決断し、密航の状態で何度も挑戦、失明しながらも６回目の渡航で 754 年に奈良東大寺に到着した後、唐招提寺を開いて受戒制度を確立することとなりました。

じつは、遣唐使「阿倍仲麻呂」記念碑が市内の興慶宮公園に有ります。遣唐使は 630 年から 894 年まで 20 回派遣されていますが、阿部仲麻呂は、717 年 20 才の時、第９次遣唐使に同行して唐の都「長安」に留学、玄宗皇帝に仕え 55 才で帰国を目指すも暴風雨により流されて再び長安に帰着「ベトナム総督」などを務め、帰国することなく 770 年 73 才の生涯を閉じました。記念碑は 1979 年に建立され「天の原　ふりさけみれば　春日なる　三笠の山に出でし月かも」の句が刻まれています。

じつは、「空海」が修行し、密教を学んだ「青龍寺」が西安市東南部にあります。空海は、804 年 30 才で第 18 次遣唐使とともに学問僧として長安に入り、この寺で修行、当初 20 年間の留学予定を２年で切り上げ帰国して日本に真言密教を国家仏教として定着させました。この寺には 1982 年に日本の四国４県から送られた空海記念碑が有ります。

少しだけ食べ物の話をしましょう。
陝西省の料理は味付けが辛いのですが、お隣の四川省の辛さとはまた違うとのこと、しいて言えば辛子味と胡椒風味の違いと言われましたけど、私には違いが分かりません。

「餃子宴」が人気とのことで、大きな店に行きました。日本で食している餃子と違って、和菓子の様に色も鮮やかな小鳥や花などの形をした餃子が並んでいて驚きました。

「羊肉泡摸」（ヤンルーポーモー）は牛肉又は羊肉に香辛料を加えて煮込んだシチューの中に、ちぎった焼きパンをいれた料理で、西安市で有名な軽食として親しまれているそうです。

「ビャンビャン麺」は伝統的な食べ物として有名で、形は長く幅の広い麺です。

もう一つの特徴が文字、一文字 68 画（ビャン）は画数の多い漢字第４位だそうです（一位は 84 画）。この文字を二つに麺を加えて「ビャンビャン麺」となります。

西安でこんな文字と出会いましたので、載せておきます。

現代経済の新しいこころみ

研究生　馬場　正子

児童労働（奴隷労働）

経済の未来について考えているが、私ごときには、荷が重すぎる。先進的に取り組む人々、あるいは国や地域の実践を紹介することで、未来を垣間見てもらえると考えている。その中一つの貿易について述べてみることにする。

近年、大人は賃金が高くつくとして児童を使う労働に移行しようという傾向が見られる。16 世紀の砂糖のプランテーションに始まるがチョコレートやコーヒー、そしてファッションなど、先進国で大量に消費されているものは、今は「奴隷」という言葉から「契約労働者」や「年季勤務」などと呼び名を変えられている。しかし、発展途上国の労働力により、先進国は支えられており、国連で現代の奴隷問題について研究しているケビン・ベイルス教授も、「今ではブレスレットや花火などといったものまで、発展途上国の奴隷労働によって成り立っている」と述べている。そして　多国籍企業は安い労働賃金でチョコレートやマクドナルドの景品のおもちゃ作りに児童を使っているとして、問題になっている。

衣料品の世界の生産調整のスピードは必要ないと思われがちであるが、流行を考えるとスピードが必要という。「ユニクロ対 ZARA」を執筆した齊藤孝浩さんによると、トレンド重視でシーズンごとに大量に商品を入れ替えるファストファッションの商品は、消費期限が最大で８週間しかないそうだ。2013 年にバングラデシュで縫製工場が倒壊し、1,100 人もの労働者が犠牲になったことをきっかけに製作された映画「ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～」が昨年公開され、ファストファッションが過酷な労働のもとに成り立っていることを伝えた。広告やマーケティング戦略によって「安いものはお得」だと一方的に刷り込まれてきた多くの先進国の消費者は、「中国製」や「ファストフード」なども含めて「安いものは質がよくない」という情報には敏感でも、自分たちが安さを追求すればするほど、異国で搾取される人がいて犠牲が増えていくということまでは、なかなか意識することはできない。世界の格差を無くすはずであったグローバリゼーションはむしろ、お金の力によって圧倒的な勝ち組と負け組みを作り出す構造を生み出してしまった。大元をたどれば、大量の労働力に頼るようになったのは必然であった。

フェアトレードという世界的流れ

国際フェアトレード認証ラベル

フェアトレード団体のマーク

その他のフェアトレードマーク

しかし近年、貿易には各国間、各地域との合意・ニーズの一致が欠かせないと考える企業がでてきている。科目履修生として、一年間お世話になった大商大の下山教授によると、海外に出かけたボランティアの人々と企業がタイアップして貿易を進めているという。このことにより、地元との信頼関係を築きやすく、ニーズを的確に把握出来る。商品開発もスムーズに展開し、輸出入もやりやすい。大阪では毎年フェアトレードのフェスティバルを開き、展示や講演会もやっている。これらの企業は日本でいう「三方よし」はもちろん、世界的な規模での環境問題や貿易の際、安い商品を求めるあまり、現地の人々の労働賃金を低く抑えていないかにも気

を配っている。

フェアトレード事業

モンサントのような多国籍企業の悪事に抗する取り組みとして、色々な事業がおこなわれているが、ここではフェアトレード企業について紹介してみることにする。

（1）シサム工房

「シサム」とは、アイヌ語で“よき隣人”という意味の言葉だという。1999 年の創業以来、「シサム工房」という名前にはフェアトレード事業を通じて世界中の人々の“よき隣人”でありたいという思いが込められている。「シサム工房」は、インド・インドネシア・タイ・ネパール・フィリピンの 5 カ国を拠点に活動する 11 の NGO 団体と協力しながら事業を展開している。京都・大阪・神戸・東京に計 8 店舗を展開している。「直営ショップ事業」と「卸事業」がある。衣類や雑貨をはじめとするフェアトレード製品を直営店や全国約 350 の取引先ショップを通じて、生活者のもとへ届けている。

写真はシサム京都裏寺通り店

（2）フェアトレードのチョコレート

カカオマスはドミニカ共和国産のフェアトレード認証カカオを使用した製品で、兵庫県の工場で作っている。イオン店にはフェアトレードチョコレートのコーナーがあり、チョコの真ん中にフェアトレードマークがついている。

（3）ウガンダの手指消毒剤のサラヤ

サラヤは、いまアフリカのウガンダで「衛生」

チョコの中のフェアトレードマーク

という概念を新たに普及させようと奮闘している。社長の更家悠介は手指の消毒剤を生産販売している。石油系でなく植物性の製品である。パームヤシから採れる油を使用している。そのため、パームヤシが減って象など野生動物の生息地を奪っていると問題になった。そこで、「ボルネオ保全トラスト」を立ち上げ、自らもヤシノミ洗剤シリーズ売上高の 1 %を熱帯雨林保全活動のため寄付を始めた。ボルネオの森林保護にも気を配っている。

サラヤの消毒器具

＊ フェアトレードとは

生産者が人間らしく暮らし、より良い暮らしを目指すため、正当な値段で作られたものを売り買いすることです。

わたしたちの身の回りにあるモノの多くは、たくさんの国や人の手を渡って日本に届いています。例えば、T シャツなどの綿製品は、畑で綿を栽培・収穫し、工場で糸にして、布にし、色を染め、縫製という工程を経てようやく 1 つの製品が出来上がります。

しかし、その裏側には、十分に生活することができない賃金で働き、貧困に苦しむ途上国の生産者たちがいます。その中には、児童労働者として働き、教育を受ける機会を奪われている子どもが多くいます。

いわゆる途上国と先進国、または企業間の取引がそもそもフェアじゃないから、こうしたことが起きます。だから、フェアな取引をして、お互いを支え合おうというのがフェアトレードのコンセプトです。（引用文）

外国人労働者制度の重要課題

外国人労働者が使い捨てにならない環境に

国際文化学科３年　木田　信正

はじめに

外国人技能実習生と少しでも交わりを持った、いち日本人として感じた私見を述べさせて頂きます。今年の４月１日より改正出入国管理法が施行されました。ただし、それはあくまでも外国人単純労働者（技能実習生）の入出国の制度を変えるという事に過ぎないのではないかと感じました。重要なことは日本での技能実習を終えたのちに母国に帰国し、日本で学んだ技能が活かせるかどうかであって、その技能を母国で活かせなければ、外国人技能実習生はただの使い捨てになってしまうような気がします。

カンボジアの技能実習生４名を受け入れているＫ県にある稲作・ニンニク・黒ニンニク加工をしている農家から、以前にヒアリングしたことを思い出しながら現場の声を紹介したいと思います。

同農家（以下雇い主）ではカンボジア人の技能実習生女性４名と地元の若者男性２名が農業と黒ニンニク加工に従事しています。雇い主並びに地元の日本人労働者とカンボジア人の技能実習生との関係は非常によく、労働条件や人間関係で揉めることはないようでした。しかし外国人労働者の雇い主として頭を痛めることは数多くあるようです。

外国人技能実習生（カンボジア人）を雇い入れている農家から聞いた事柄を紹介

(1)受け入れ雇い主に課せられる技能実習生の監理事項が多く、届け出書類などが繁雑、且つ複雑でその対応に追われている。受け入れの監理機関である国際交流協同組合は民間機関であり、人材・資金が極端に不足している。

(2)当該農家は、ニンニクの栽培と稲作の二毛作、および黒ニンニクの加工も行い、無駄な時期をつくらないように心がけ、繁忙期には日本人パートを雇い、外国人労働者の残業時間も規定範囲内でおさめている。しかし単一農作物のみを栽培している農家では、農繁期が一極集中し残業時間が急増する。

農閑期には仕事がなくても毎月給与や協同組合に監理費は払わなければならない。農業関連ではこの農閑期に外国人労働者のトラブルが発生し、失踪が多いのもこの時期である。

(3) 悪質な送り出し機関（中間ブローカーも含む）が多く、保証金・渡航費・紹介手数料をとる。噂にすぎないが、技能実習生は日本円で約百万円から約二百万円？を借金し、送り出し機関に支度金として支払うようである。

(4) 農業関連よりも加工業に従事している技能実習生の失踪は多いと聞いている（2018年の統計では約9000人、内ベトナム人が約46%、中国人が約23%、自殺者も171名におよぶと聞く）。外国人労働者の失踪にはシンジケートが暗躍しており、失踪の手助けをしている。茨城県に中国人の失踪者が暮らす街が形成されているとの噂がある。最近ではベトナム人失踪者の街も存在すると聞く。ほとんどがビザの有効期間が過ぎた滞在者である。

(5)失踪の原因は低賃金・労働の悪条件・人間関係（パワハラ・セクハラ）だと一般的に言われているが、一番の原因は日本で技能実習をしても、それが自分の国で活かせないという大きなジレンマがあるのではないか。例えば稲作の技能を学んでも、日本の稲作（水稲）と母国の稲作（陸稲）では全く違うし、土壌も違う。加工業にしても品質管理の考え方・設備が根本的に違う。

以上の雇い主よりのヒアリングを総括すると、送り出す側の監理がずさんであり、良い話だけをして送り出し、日本での受け入れ機関のキャパシティーに限界があり、監理責任は雇い主に覆い被せられていることに問題があり、更には日本での技能実習が終了したあとのフォローアップがなされていない事が、大きな問題であると思います。

技能実習が終了後の母国での就活をも見据えた面で捉える必要性

推測ですが、技能実習生の給与は総額で約15万円ぐらいでしょう。しかし協同組合への支払いや福利厚生費などを差し引くと手取りはその半分ぐらいと言われています。国許の家族への仕送りと、送り出し機関（ブローカー含む）へ支払った際の借金返済を引くとほとんど手元には残らないでしょう。逆に赤字になってしまうのではないでしょうか？

監理費用はしっかりとるが、何もしない問題のある受け入れ機関が存在することも事実です。ある受け入れ機関は送り出し先と、外国人労働者が失踪すると 20〜30 万円のペナルティーをとるという裏契約をしているようです。これもすべて最終的には技能実習生が負担することになります。よって技能実習生が送り出し機関に払う支度金が大きく膨れ上がるのです。

誠実に取り組む受け入れ機関もたくさんありますが限界があります。下の写真を見てください。事務所、多国籍外国人技能実習生用の研修センターであり宿舎です。多国籍外国人実習生のため複数の日本語教員が必要となり、監理業務を行う複数の人材確保も不可欠です。かなりの経費がかかります。このK県の協同組合では経営が厳しいので、サニーレタスの栽培を兼業し、なんとか食いつないでいるのが現状です。しかし、その事により外国人労働者への監理業務がおろそかになるという悪循環を生み出しています。ただ単に労働力不足のため外国人労働者を増やすのではなく、実際に受け入れる監理団体の現状も鑑みた上で、外国人労働者の受け入れ人数を決めるべきではないかと思います。すなわち外国人労働者の問題を、母国からの送り出し、日本での受け入れ、受け入れ後の監理、そして技能実習の終了後の就活をも見据えた面で捉えるべきではないかと思います。

国際交流協同組合

最後に

一枚の写真を紹介します(写真前頁上 左から２人目は筆者)。この写真は３年前に、前述の国際交流協同組合で研修を終え、受け入れ企業である食品加工場に技能実習生として配属される中国安徽省の農家出身の、21 歳から 22 歳の３人の希望に満ちた初々しい女性です。３人とも口を揃えて「お金を稼いで、中国にいる親元に仕送りをする」と胸を張っていました。３年過ぎた現在も、まだ技能実習中であると信じてますが、この３人が中国に帰ったあと、どうなっているのかを見届けたい気持ちでいっぱいです。研修センター（協同組合）から旅立つ時の純粋な気持ちが、技能実習期間が終了し中国に帰国しても失われないことを祈るばかりです。

更に付け加えると、日本で得た技能実習を母国で活用できないのであれば、日本で活用するのも選択肢の一つではないでしょうか。日本語能力や熟練技能が求められ、取得が難しい「特殊技能２」がそれにあたるかもしれませんが、その業種が少なすぎます。

日本に夢を持って働きに来る外国人労働者の夢と実態を正しく把握すべきです。彼らは国許の家族の生活を支えており、大きなリスクを冒して日本にやってきます。食い物にしたあげく使い捨てにだけはしないでほしいと強く思います。

ホールインワンとゴルフ人生

文学歴史学科３年　川田　郁夫

ゴルフをやらない人には分からないかと思いますが、ホールインワン(Hole in One)とは、そのホール(通常ショートホール)の１打目が直接カップに入ることです。

ホールインワンの確率は、ネットで検索すると色々なデータがありますが、米国雑誌のデータでは、プロで 1/3000、上級者で 1/5000 アマチュアで 1/12000～1/45000 という数字がありました。私が所属しているゴルフサークル「ゴルフ 18」では、2001 年から 190 回の月例大会が開催されており、この間のホールインワン達成者は６人で、参加者の数から確率を推定すると 1/8000～1/10000 となりました。ホールインワン記念品を扱うネットショップが成り立つことを考えると確率はもっと高いのかも知れません。

私がゴルフを始めて今年で 42 年が経ちます。社会人になって３年目の 24 歳のゴルフコースデビュー戦でバーディーを取るという、鮮烈なゴルフ人生のスタートを切りました。今年の７月には 22 年ぶりに３回目のホールインワンを達成しました。今までのホールインワン達成記録を下記の表に示しております。これまでのラウンド数は約 750 ラウンド、ショートホールでの打数は約 3000 回になりますので確率は 1/1000 になります。幸運がそんなに続くわけがないのでやはり実力かなと自画自賛しておりますが、私のゴルフは調子に波があるため良し悪しがはっきりしています。従って、決して最終スコアは良くありません(オフィシャルハンディ 17 です)。私の実力は園田の同伴プレイヤーがよくご存じです。

退職後は思う存分ゴルフをやるぞと現役時代仕事に頑張ってきたつもりなので、退職と同時に堰を切ったようにラウンド数を増やしてきました。退職と同時に神戸に住み始めて３年、初めての地で知り合いもいない中、ゴルフ仲間を増やすべく先ほどのゴルフサークルへの入会、メンバーコースへの入会、そして何よりうれしかったのは園田に来てからゴルフ仲間が増えたことです。文歴２年の福島久雄さんの音頭で「けやき会」も結成されております。けやきクラブのゴルフ部に昇格できるかは分かりませんが、仲間が増えることを願っています。

１回目のホールインワンは、37 年前のインドネシア赴任中でした。糸巻きボールの時代で、スモールとラージボールが混在、ウッドクラブはパーシモンでした。ゴルフクラブ・ボールの進化はゴルフ年齢層の幅を拡大し、健康であれば 100 歳でも可能でしょう。シニア専修コースには私より 20 歳以上高齢のプレイヤーがおられます。非常に励みになります。

今までプロのゴルフ Lesson を受けたことはなく、自己流でやってきました。退職後、本格的にゴルフに臨む覚悟でクラブはアスリートモデルに変更しました（本来は年相応の優しいクラブに変えるべきなのでしょうが)。しかし、スコアが思うようにならず、Lesson 動画をひもとく機会、練習場通いが増えてきています。練習場ではうまくいってもコースに出ると徐々に昔のスイングに戻っていく自分に腹が立ちます。

まだ人生は長いです。まだ達成したことのない 70 台、エイジシュートに向けて体力とお金の続く限り頑張っていきますので、応援のほどよろしくお願いいたします。

達成日	ゴルフ場名	ホール名	距離 (yard)	使用クラブ	達成時通算概算ラウンド数
1982.2.28	サワンガンゴルフ場(インドネシア)	NO.12	152	7i	100
1997.2.15	小川カントリー倶楽部(埼玉)	NO.7	191	4i	350
2019.7.21	サンロイヤルゴルフクラブ(兵庫)	NO.13	163	8i	750

ゴルフのけやき会誕生

文学歴史学科２年　福島　久雄

今年４月にゴルフ好きが集まり「けやき会」を結成、中国自動車道吉川インター周辺のゴルフ場を舞台に毎月ゴルフコンペを開催している。シニアのゴルフは見ていてとても和やかだ。たまにあるナイスショットを頼りにダフリ、トップ、チーピン、スライス、テンプラ、とどめのシャンクとあらゆる“秘技”を駆使してゴルフを楽しんでいる。笑いが絶えない。

会の発足のきっかけは、一番ゴルフに熱心な女子の「なんでゴルフのクラブがないんやろ」の一言。あちこち声をかけるとすぐに10名（内女子１名）のメンバーが集まった。メンバーは文学歴史学科が８名、国際文化学科１名、情報学科が１名。メンバーの中には７月にホームコースでホールインワンを達成したゴルフ歴 40年の凄腕もいるが、始めて数年の初心者もいる。スコアは90前半の人もいるが、120を超える人もいる。100を行ったり来たりが平均のようだ。

ゴルフ場の選択は、家から車で１時間くらいの平日料金がリーズナブルなところに決めている。また、いろいろなゴルフ場でプレーしたいというメンバーの要望で毎月ゴルフ場を変えている。

けやき会では一緒にゴルフを楽しみたいという仲間を募集しています（女性大歓迎）。月に一度、ゴルフで気分爽快になりませんか。

連絡先：福島久雄　080-4560-2117

けやき「多彩な趣味の会」より

研究生　今西　伸子

花文字とは古来、中国の皇帝や皇室が国の隆盛を願い、風水画家に「中国彩虹書法」と呼ばれる技法を使って運気を上昇させる花絵文字を描かせたのが発祥と言われています。特に龍は、四神・四霊の長であり瑞兆である。神話伝説の生き物です。

切り絵・宝船と七福神

「古事記」に、事代主命（日本神話の大国主命の子）が皇室の先祖に地上の支配権を譲ったあと、船に乗って海の彼方にいったとする物語があり、のちに事代主命は常世国から、人々の住む世界に訪れ助けてくれる恵比寿神になったという伝説があります。

七福神が宝船で海の彼方にある神々の世界から来るという発想となります。

（切り絵上段左より　福禄寿・弁財天・毘沙門天
下段左より　大黒天・寿老人・布袋尊・恵比寿）

けやき朗読倶楽部 探訪

楽しく、真剣に
和気あいあい

練習にお邪魔したのは、10 月 9 日の 3 時間目が始まる頃。場所は 2 号館 3 階で、けやき祭をめざして朗読倶楽部は練習中でした。

「朗読で、絵本落語を楽しもう」が、今年のけやき祭出演のテーマで、『しちどぎつね』の練習が始まっていました。

先ずはナレーターが「大阪の仲のええ二人づれ、喜六と清八が、お伊勢参りの旅に出て参りました」。続いて「なんやねん、せいやん」「なんやねん、きいこう」と続きます。ここらで話に引き込まれました。次は、カブリモノや衣装を着けての練習です。

道に迷った喜六と清八は、男を泊めない尼寺に阿弥陀さんのお守りをするということで、泊まることになりました。が、出された雑炊は赤土やカエル入り。棺桶から出てきたばあさんが「カネ返せぇ。顔を見せぇ。伊勢音頭を歌えぇ」と迫ってきます。会話の面白さとストーリーの展開の面白さで、笑ってしまいました。

死人役の「カネ返せぇ、カネ返せぇ」のことばに清八役が笑いのツボにはまってしまって、セリフが続かない場面もありました。

3 時間目の講座を終えたメンバーが次々に来て、総勢 12 名で全体練習の始まりですが、まずは打ち合わせから。マイクの立ち位置やタイミング、入退場などをテキパキと指示していくのは、部長の金森扶美子さん（研究生・写真上）です。

今年のけやき祭の演目は『日本霊異記』から『怪力女房』と、内田鱗太郎作の『ともだちや』、絵本落語から『まんじゅうこわい』など 5 本です。

『ともだちや』では「寂しいひとはいませんか。ともだち一時間、百円…」とキツネ役。ミミズク役が「ホーホー、ともだちやか」と言ったところで、「ホーホーじゃあなくて、ホッホウ」と部長の声がかかる。すぐに台本通りの「ホッホウ」になるところがすごい。キツネ役の「アハ、アハ、ハハハハ」の笑い声に「うまい！」の合いの手が入る場面もあり、部員の繋がりや練習の積み重ねを感じました。

練習の合間の会話で、家で練習していたら「うるさいからやめて」と言われた、という話がありました。「私は声が大きいから隠し事がでけへんねん」とのこと。別の部員さんは「セリフを録音して練習している。それで自分のアクセントの違いに気がつく。関西弁ではアカンから直してる」などの話も聞きました。

練習が終わった 5 時、餃子や焼きそばを食べながらの反省会で「練習は厳しい面もあるけど、こういう楽しみもあって、このクラブでよかった」との声を聞きました。

＊セリフの一部を漢字表現にしています

取材･写真　「けやき便り」編集クラブ　河田

クラゲの水族館と“シンクロニシティ”

鶴岡市立加茂水族館
愛称は「クラゲドリーム館」

研究生　西島 登志子

日曜日の夜、情熱大陸にチャンネルを合わすとクラゲ博士の奥泉さんが映し出されていた。いつもならクラゲには興味がないし眠いので消すところだったが、目がびっくりして大きくなった。クラゲだ。加茂水族館だ。これはどういう風の吹き回しであろうか。これがシンクロニシティといわれるものなのか。

前日の土曜日の句会で柳友から「読んで」と小さな紙を渡された。

そこには「変なものが有名」との題でＢ５の用紙に文が書かれていた。

『１つ目は人面魚。今も健在。２つ目は加茂水族館。なんの変哲もない水族館が「海月」だけの水族館として有名になる。３つ目は蜘蛛の糸から考えた鶴岡市にある繊維。そして最後に誇れるものとしてラムサール条約湿地に登録されている上池、下池。鴨が１万羽、コハクチョウ６千羽もいて家から十分程度で行けるところにある』とのこと。ふるさと自慢だった。

「いいなあ～」と思っていた次の日である。情熱大陸の加茂水族館のクラゲを見てびっくりした。クラゲの美しさに魅せられ、奥泉氏は 60 種類ものクラゲを展示しているという。キラキラきらめくクラゲにうっとりした。直径５ｍの水槽に４千匹の水クラゲが泳ぎこれは圧巻。夢の世界にいるようだ。

最初は飼育員として水族館に勤務した奥泉さん。簡単なアシカのショーなどを手がけていたが、全国的な水族館ブームに取り残された。山形の小さな海辺の町の水族館は客足が途絶え、廃館の危機に追い込まれた。

そんな時、偶然サンゴの水槽で生まれたクラゲを飼育し展示した。これが好評を得てクラゲの専任に任命される。1997 年にクラゲの展示に取り組み、2003 年に 20 種類展示で世界一になる。2012 年には 30 種類展示でギネスに世界一を認定される。2016 年には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問された。

奥泉さんは今やクラゲの神様として、海外の水族館にもクラゲの増やし方や育て方の指導者として活躍中である。

そんな奥泉さんを見て育った娘さんも他県の水族館でクラゲの展示に携わっているとのこと。そのことがまた嬉しくてという奥泉さんだった。見ている私までほのぼのと嬉しくなった。奥泉さんは「こんな人生が待っているとは思わなかった」と感慨深そうな顔をした。

直径５ｍの水槽に４千匹のクラゲと観客
加茂水族館大水槽（クラゲドリームシアター）

シンクロニシティという言葉があるが、きっと柳友から何も聞いていなければ興味も持たなかったことが、柳友の言葉に即したことが実際に起こり、まるで引き寄せられるようにやってきたクラゲの水族館の映像。その共時性にびっくりした。山形はずいぶん遠いけれど、藤沢周平が生まれた鶴岡市でもある。一度訪れてみたくなった。

＜ざっきちょうから＞

風薫る慈光院

研究生　金森　扶美子

５月のある日の午後、気持ちのいい風に吹かれて、縁側に足を投げ出し、「ああ、ずっとここでこのまま昼寝でもしたいね」などと言ってまどろんでいた。

気がつくと先程までガヤガヤしていた仲間の気配が背中になくなっていた。慌ててリュックの片づけをして、玄関まで戻ろうと後ろを振り向いたら、柱の傍らで一人の老人が、「ちょっと」と手招きをしていた。

「はあ？」と私はいぶかし気に老人を見た。

「ちょっとここへきて座ってごらんなさい」と言う。

「すみません、もう行かなくてはならないので……」と私。すると老人は、「騙されたと思って、此処にきて座ってごらん」と半ば強制的とも聞こえる威厳のある、だが優しい声で言う。

老人は広い座敷の中央の柱を背にして、薄鼠色と薄紫色を重ねた上品な法衣（作務衣？）を着て、とても穏やかなすっきりとしたお顔である。ひょっとしてこの院の住職さんなのではなかろうか？

言われるまま、指さされた場所に腰をおろした。座るといっても、ジーパンで正座の苦手な私は一瞬戸惑う。それを察したか、老人に「こんなふうに坐りなさい」と言われて見ると、彼はアグラをかいているように見えた。思わず私は「こうですか？」と言いながら、アグラをかいてしまった。

「どう？」と住職。

「ここが一番いい場所なんだよ。わかる？」

「あっ、本当にとてもいい風が四方から吹いてきて、気持ちがいいですね」と考えもなしに思わず答えた。

「風だけじゃないよ。この場所から眺める景色は最高！ 天井や鴨居の高さを低くして、立ってでも座ってでも、遠い奈良の山並み・青垣山を借景にして、樹木の垣根、庭園、東南に開かれた縁側とすべて眺められる。サツキを始めとして、季節ごとの風情を楽しめる。仲秋の名月の時はさらなり」と、滔々と気持ちよく話された。

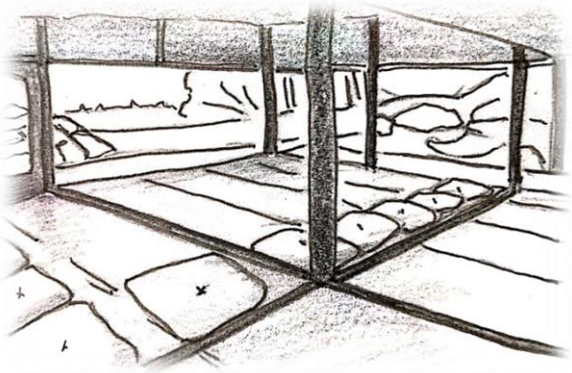
いつの間にか、仲間の幾人かが住職のまわりを囲んで話に聞き入っていた。そして、「昼寝をしている場合じゃないよ」と言われてしまい、あらためて住職の足元を見ると、アグラではなく座禅坐りだったのには、女だてらにアグラをかいていた私は冷や汗ものだった。

法隆寺から斑鳩の里を歩き、その後、お抹茶とお菓子のおもてなしがあるというので、足を延ばしたのが、大和郡山の 1666 年建立・片桐石州（石州流家元）の慈光院だ。

私には聞いたこともない院名だし、ただ食べ物のみに誘われたのだが、予想に反して、とても落ち着いた風情で、門を入ると趣ある茅葺屋根の書院に、まことに手入れの行き届いた庭園と、書院の中は解放感溢れる座敷が拡がっていた。そこで頂いたお抹茶のおもてなしに、疲れが一気に吹き飛んだのだった。

帰りに住職みずから玄関まで丁寧に見送ってくださり、「名月の時にぜひに」と慈光院の石州懐石のチラシをしっかりと配られた！のも一興であった。

のちに、NHK 大河ドラマ『真田丸』に、片桐石州なる人物が登場し、あっ、この人の作った院に行ったんだと親しみを覚えたのは言うまでもない。



社会連携推進センター
生涯学習ユニットからの
お 知 ら せ

令和の新しい年を迎え、今年度も残りわずか５ヶ月になりました。シニア専修コース受講生の皆様には、日頃より本学の生涯学習にご理解・ご支援賜り、感謝申し上げます。

さて、その生涯学習 40 年を記念し、年度初めより様々な記念行事や講演会、セミナーなどを実施しています。本学看板講座「人間を考える」では、従来通年のご受講をお願いしていますが、40 周年限定で単独受講可能（1,600 円/回）としました。最終回の 2/1（土）に開催される吉村稠先生の講座は 1/18（土）まで受付けておりますので、是非ご受講ください。その他、2009 年からの 10 年をまとめた『40 周年記念誌』の制作を計画。「けやき便り」編集部にもご協力頂き、「シニア専修コース」の頁を企画準備しております。皆さまにもご紹介できるよう検討中です。ご期待ください。

今年度も、開設 18 年の「シニア専修コース」の伝統、そして、専門性や学び易さ、親しみ易さなどの観点から、次世代に向けより改善の方向性を探ることを目的に「アンケート調査」を実施しました。ご協力いただき誠にありがとうございました。在籍者数 376 人中 92 人(回答 24%　*昨年度より 5%減)の皆様方にお声を頂戴しました。現在の来年度事業計画を進めるにあたり貴重なご意見として参考にさせていただきます。

今後、可能な範囲で回答し、ご質問にお答えする予定でおります。よろしくお願い申し上げます。

1　2020 年度４月入学生募集開始

11/25（月）より希望者の面談・授業見学を開始しました。ご友人でご関心のおありの方がおられましたら、センター事務室備え付けの募集リーフレットをお持ち帰り頂き、是非ご紹介ください。2 月迄の期間中、一部授業を見学・体験用に公開いたします。ご協力よろしくお願い申し上げます。

2　今後の予定

２０２０年	
１月９（木）～ ２月２８日（金）迄に	研究生継続手続き *新規登録は 3/6～
２月中	特別講座開催
３月６日（金） １３：００～１４：００	２０１９年度 卒業式
４月９日（木） １３：００～１４：３０	２０２０年度 入学式
４月９日（木）～２４日（金）	ハンドブック・時間割配布/履修登録
４月１３日（月）	２０２０年度 授業開始

注意 2020 年度の「学内レントゲン受検」は授業開始後の５月に実施予定です。（現在日程調整中）「他機関でレントゲン受検の方」は、2020 年１月以降に受検した健康診断証明書（胸部Ｘ線検査）をご提出ください。

3　さいごに・・・

本学公開講座の看板、オムニバス講座、「人間を考える」のシニア担当回では、岡田さん、鈴木さんに講師をご担当、また、多数のご参加を頂きました。また、10 月の学園祭においてもクラブ同好会の皆様の参加で大いに盛り上げていただきありがとうございました。来年度も企画してまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

生涯学習ユニット・スタッフの

「令和元年、私の〝NEW〟スタイル～ご紹介」

所長：リフレッシュ＆フルーツセッシュ！
課長：メルカリにはまる。駅まで 10 分の自転車をやめた。
Ｍ：早朝の家庭菜園でスッキリ！
Ｙ：早寝早起き！！
Ｎ：キャンプで静かに焚火を楽しむ。

☺ **社会連携推進センターからのお知らせは、センター前掲示板やＨＰの他、以下からも発信。是非ご覧ください！**

@sonodasyougai

@sonoda_syougai

『けやき便り』への投稿について

1.「けやき便り」では皆さんからの自由投稿をお待ちしています。題材は、クラス・クラブの活動の紹介、趣味（旅行、俳句・短歌・川柳・絵・書・写真・イラストなど）の紹介、何気なく感じたことや思ったことなどのエッセイなど何でも結構ですので、どしどしお寄せください。

2.原稿について

原稿の長さは自由ですが、目安として、0.5～２ページ。1 ページ当たりは写真・イラストを含めて本文 1400 字～1600 字程度です。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。学習センターの事務所の「けやき便り」編集クラブの連絡 Box に入れてください。

② パソコンを使用される場合

下記アドレス宛にファイルをお送りください。

櫻井秀也　hideyasakurai94@gmail.com

③写真掲載について

「けやき便り」はウェブ上にも掲載され、カラーで見ることができます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いします。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集クラブで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。

6. 投稿される方はお名前を書いていただきますようお願いいたします。無記名・匿名・ペンネーム等はご遠慮ください。

編・集・後・記

貴重な人生経験の上に、更に学びを深められている投稿者の多彩な活動、趣味におどろき、毎回編集が楽しみです。「けやき便り」の読者が多いことは編集部員にとっても励みになります。

研究生　峠田　桂子

今回もたくさんの方々にご協力頂き、無事に「けやき便り」を発行することができました。

皆さんの原稿を読んでいると、シニアの方々は、多くの体験を通して、日々新たな気持ちで毎日を過ごしておられるのだと痛感しました。生活のちょっとした出来事を面白く切り取った＜ざっきちょう＞は毎回楽しみにしていますし、「渡る世間に鬼はない」を異国で体験されたＳさんの旅行記は、ドラマを見ているようで、ワクワクしながら読ませて頂きました。

これからも魅力あふれる紙面づくりを目指していきたいと思っていますので、投稿をお待ちしております。

研究生　酒井恵理子

編集にたずさわって 7 年になりますが、つねづねもう少し気軽で楽しいコーナーもほしいと思ってきました。でもなかなか思うような投稿が集まりません。そこで犠牲的精神で＜ざっきちょう＞というコーナーで“恥も書き捨て”とばかりに載せてもらうことにしました。こんな日常の何気ない出来事や思ったことを気楽に編集クラブに届けてもらえないかな？と期待して。皆さんの投稿を待っています！

研究生　金森扶美子

スマホからは「けやき便り」のバックナンバーを右のＱＲコードから見ることができます。